

# 『3・11いわて教会ネットワーク』ニュース

Vol.18 2013年2月3日

## 「311を境として」

盛岡聖書バプテスト教会牧師 近藤愛哉

『311』を境として、何がどう変わり続けてきたのだろうか。

日々の働きや必要に追われながらのせわしい毎日が過ぎて行く中で、それでもしばしば立ち止まり、自問しています。『3. 11』を通してキリスト者である私たちの信仰、その世界観や終末に対する意識にはどのような変化がもたらされ続けているのだろうか。『3. 11』は私たち、主の「教会」に何をもたらし続けているのだろうか、と。

大震災発生直後、ある町を訪れた時に目にした光景を忘れることが出来ません。かつて街の中心地であったはずのその場所は一面の瓦礫が広がる原となり、人が何年もかけて作り上げて来たはずの建造物は全て崩れさっていました。それはやがていつの日かもたらされる主のさばきの日を連想させるものであり、「上辺」の繁栄がはぎ取られたその時、もし「福音」を知らなければ、そこに残るのが絶望でしかないことを強く意識させるものでした。

放射能により、人が住むことが出来なくなった故郷の実家に3時間のみの帰宅が許され、数年ぶりの「帰省」を果たした際の経験もまた忘れることが出来ません。一見するとこれまでと何ら変わることはない街がそこにあるような錯覚を覚えました。我が家があり、隣家があり、あの坂があり、通学路がある。でもそこからは人の姿、人の声、人が生み出すあらゆる種類の音と動きとが絶え果て、これまで味わったことがない静寂と、「生」から切り離された町に横たわる恐ろしい程の「空虚」とがそこに満ちているように思われたのです。それは、「命の源である神から切り離されること」という「死」の本来の意味を示唆しているかのような光景でもありました。

あの『311』を境として、与えられている「命」と、私たちに生をもたらし「福音」とがこれまでになかった程に意識され、この地上において主から委ねられている使命の意味と重みとが強く迫り続けています。神はご自身の計画の中で、この地上に主の教会を備え、主を愛し、主に従う者達を備えられました。やがて訪れる終末を見据えつつ、しかし今、目の前にある荒廃と虚しさ絶望に対するただ一つの答えである「福音」を委ねられた教会として、キリスト者として私たちは、この時代、この場所に置かれ、遣わされていることを覚えるのです。

数えきれない程の祈りと支えの中で、主の憐みによって続けられて来た「3. 11いわて教会ネットワーク」を通しての協力と働きとが、「キリストのからだなる教会」の働きとして、これからも主の御わざと主の福音とをひたすらに体現し続けるものでありますように。

「そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいますように。」Ⅱテサロニケ1:11

東日本大震災から1年10ヶ月、寄せられる祈りと支援の積み重ねによって、働きが岩手県各地へと広がっていきました。それぞれの地域に常駐するスタッフも与えられ、地域と人々への丁寧な関わりが与えられ続けています。各地域の様子と課題をご紹介します。続けてのお祈りを宜しく願います。

### 岩泉 田野畑 普代 野田



教会がそこにあることによって、また人々の肉体的・精神的・霊的な必要を満たすことを通して、神の愛が表されることを願っています。

2012年は90名のボランティアの方々が岩手県内、日本国内、そして海外からも駆けつけ、物資配布、カフェ、訪問と傾聴などの働きを方々でして下さいました。その結果、いくつかの地域で聖書の学び会がまもなく始められる予定です。あるご婦人は「皆さんが訪問して下さいのおかげで震災後1年半も話すことができなかつた胸の内を遂に話すことができました」と語って下さいました。地震と津波による壮絶な経験をされた多くの人々に、今後とも寄り添って下さる方々が必要ですし、長期に渡っての心のケアと祈りが必要です。今後とも主が必要な働き人を送り、人々に主の慰めが与えられるように続けてお祈り下さい。

### 宮古



それと同時に「いつまでこの活動を続けていくべき

### ダーン・パークナー

岩泉に建てられた北三陸キリスト教会は、岩泉、小本、田野畑、普代、野田に住む26,000人の人々に仕えています。

### 永田道生

あと二ヶ月で震災から二年の月日が経とうとしています。今なおも、宮古では毎週多くのボランティアが駆けつけてきてくださること

なのか？」という疑問も平行して考え続けていきました。

ある方からは「お宅さん達もいい潮時っていうのを考えた方がいいのでは？」と言われた事もありました。決して悪意を持っての発言ではなく、「ボランティアさんと関わりを続ければ続けるほど、別れるのが辛くなってしまふ。再び別れと悲しい思いをしたくない」というのがその方の真意でした。

いつまで続けていくべきなのか、その様な疑問を抱えつつも、今年の活動第一週目にある方から一通のお手紙を頂きました。「心が折れそうな時に来てくれたから・・・何も持ってこなくても訪ねてきてほしい」。その方の感謝を表した手紙でした。物資を届ける中で与えられた出会い、続けて来てほしい、というのが彼女の願いでした。「被災した町を見たくないから家からも出られない」、「仮設住宅から出る見込みもない、仕事もない、どこに希望を持っていいのかわからない」震災から二年が経とうとする被災地でこれが「今」聞こえてきている声でした。

いつまで続けていくべきなのか、どの様な関わり方が最善なのか、悩む所はいくらでもあります。しかし、傷ついた心が目の前にあり、「今日その励ましが必要だった」と言って下さる方がいる限り、寄り添い、愛し続けていきたいと思ひます。

### 山田



### 本間英隆

2013年、新しい年を主に感謝します。今年もイエス様とともに！ 去年はいっぱい準備、開設、運営と目まぐるしい1年でした。今では山田町のみなさんから「いっぱいぽさん」と親しく呼ばれるほど、広く知られるところとなりました。まだ来たことのない方でも、名乗ると、「ああ、いっぱいぽさんね。」と言ってくださいます。感謝します。

今年の活動も何をどのようにしていくのがいいのか、今まで同様、みこころを求めて、神様に聞きながら進んでいきたいと願っています。なかでも、

特に導きを求めていることは、仮設でのカフェを今まで通りの方法で今後も続けるべきかどうかということです。お祈りください。

役場や他団体から連携を依頼されるプログラムもあり、次々に様々な団体と協議する場面が増えています。いつでも、ていねいで誠実な対応を心がけていきたいです。地元の方々の要望に応えながらも、できることとできないこと、キリスト者としてすべきこととそうではないことを祈り求めながら、今年も歩んでいきます。

被災地のみなさん、主にある同労のみなさんとともに、いっぱいっぽ。

## 釜石 大槌



## 高橋和義

去年は、釜石でお茶っこサロン活動、大槌では子どもの放課後学習支援活動をおもに行いました。大勢の被災者、

被災児童と出会うことが出来ました。感謝しつつ、今年もこれを継続していきます。

釜石でのお茶っこサロンについては、訪問先を増やして欲しいというご依頼を受けて、新年から新しい仮設団地でも活動を始めます。合わせて10カ所になります。

大槌での放課後プログラムは9カ所で再開します。これまでの活動を継続すると同時に、釜石での学習支援プログラムの開始、英会話やアメリカでのホームステイの導入、受験勉強の支援など、特に被災地の子供たちの将来のために働く支援活動を拡げていきたいと思えます。子供たちに接していくと、その背後にいる若いご両親、ご家族の皆さんの心のケアをする機会が自然に生まれてきます。皆さんのお祈りの支援をお願いします。特に健康を壊している妻の回復のためによろしく願います。

## 大船渡



## 大塩梨奈

大船渡での働きは、主に仮設でのイベント、大工、そしてみなし仮設の方々の訪問です。

11月はアメリカの感謝祭にちなんで、アップルパイを各仮設の方々と一緒に作り、感謝の対象、創造主なる神さまの事を少し話すことができました。ある仮設では皆で一緒に祈ることもできました。12月は、各仮設クリスマスリースを作り、クリスマスについての話しをすることができました。少しずつですが、神さまの事を分かち合う機会が与えられています。

また、個人的なコンタクトも少しずつ深まって来ています。仮設の談話室では個人的なことを話さなくても、一対一になると色々な悩みを話してくれます。訪問も同じです。そこで、一緒に祈ったり、証しする機会が多く与えられています。

目に見える形はともゆっくりですが、神さまが確実に大船渡の方々に働きかけておられることが感謝です。引き続き、証し、御言葉を語る機会が与えられるように。また、ウイットワ―・千加子さんの首の癒しがあるようにお祈りをお願いします。

## 一関 気仙沼 陸前高田 松本英美子



ハレルヤ！ 一関市千厩町のホープセンターからの報告と祈り課題をお伝えします。現在、私たちはフードバンクの働きを中心

に活動をしています。台湾の教会から支援をいただき、被災されたご家族に日用品や食品をお届けしています。各家庭に出向いて物資をお渡ししていることで、より個人的な関係を築けています。フードバンクの働きの他には、仮設住宅でお茶っこ会を行ったり、地元の千厩、室根の地域でイベントを行ったりしています。去年のクリスマスにはコンサートを開いて証をしたり、本当のクリスマスの意味をお話ししたりして、よき交わりの時が持たれましたから感謝です。

さて、岩手にはこれからさらに厳しい冬が訪れます。スタッフの霊肉共に支えられ、車の事故が増えるこの季節の運転も守られますように。そして、来年度も岩手県から借りている現在の宿舍の契約を更新することができますようにどうぞ覚えてお祈り下さい。



### スタッフの交代

今までスタッフとしてご奉仕下さってきた松井博子、南光誉司、小林諭、クリスティーン・ジョーンズ、黄斯南各スタッフが昨年末をもちまして岩手での働きを終了し、新しい働きへとそれぞれ向かっていかれました。その一方、ドイツ人宣教師のタイス・ヘルガさんがスタッフの一員として 11 月から3月まで主に一関ベースを中心にご奉仕下さいます。スタッフは今後も必要です。備えられ続けますよう、是非、お祈り下さい。(写真はタイス・ヘルガさんによるステンシル教室)



### 福島HOPEキャンプに参加

12月26～28日にシオン錦秋湖を会場に開かれた福島県キリスト教子ども保養プロジェクト(福島HOPE)の「雪遊びキャンプ」に数名のスタッフが参加。放射能の影響と不安にさらされる福島の子どもたちや保護者たちとともに楽しい時間を過ごしました。今後も福島との協力を大切にしながら、同時に、岩手での放射能問題とも取り組んでいく予定です。

### スタッフの健康のためにお祈りください

蓄積された疲れや、慣れない北国での生活のゆえに体調の優れないスタッフが数名おります。長期休養が必要なスタッフもいます。また流行のインフルエンザやノロウイルスなどに感染して一時体調を崩していたスタッフもいます。スタッフの肉体的・精神的・霊的が必要がいつも満たされますように、冬の寒さの中にあつての健康と安全のために是非、お祈り下さい。

3.11いわて教会ネットワーク 2012年末決算報告

伝票期間:2011年03月11日～2013年01月10日(年末決算仕訳)

収入の部				支出の部			
科目	適用		金額	科目	適用		金額
一般収益	一般献金	3.11献金	¥8,460,227	支援活動費	人件費	短期/長期スタッフ支援	¥4,665,000
特別収益	人件費指定献金	スタッフ給与支援指定	¥4,080,000		支援物資	支援物品・支援食料	¥1,931,901
	支援ベース指定献金	支援ベース維持管理費支援指定	¥1,504,000		支援献金	現地教会サポート献金	¥450,000
					活動費	活動諸費用	¥1,073,180
雑収入	預金利息	ゆうちょ銀行	¥2,009				
前期繰越金			¥15,499,426	<活動費合計>			¥8,120,081
				活動管理費	住宅費	支援ベース修繕費、家賃、水道光熱費	¥5,078,167
					会議費	3.11いわて会議費	¥27,492
					福利厚生費	スタッフ医療費、スタッフリトリート費用	¥846,550
					事務通信費		¥163,574
					広告宣伝費	各報告集会費用、出版物購入配布費用	¥800,609
					車両関係	ガソリン、修繕、保険	¥2,305,485
					備品	各ベース備品、活動備品	¥698,605
				<活動管理費合計>			¥9,920,482
				特別基金	人件費支援基金	スタッフ給与	¥3,588,200
					ベース支援基金	支援ベース仕様諸費用	¥1,320,980
				利益剰余金	次期繰越金	繰越剰余金	¥6,595,919
				<活動資産残高>			¥11,505,099
収入の合計			¥29,545,662	支出・残高の合計			¥29,545,662

### 12～1月に支援活動に従事して下さった諸団体、諸教会

ホクミン、七飯教会、恵泉キリスト教会、OMF、北栄キリスト教会、台湾チーム、小羊チャペル、札幌西福音教会、青山学院附属高校、八戸教会、バプテスト久慈教会、香港チーム、シンガポールチーム、練馬バプテスト教会、滋賀県チーム、東京ユニオンチャーチ、気仙沼高校野球部、

宮古コミュニティ・チャーチ、盛岡聖書バプテスト教会、盛岡みなみ教会、

北上聖書バプテスト教会、水沢聖書バプテスト教会

(その他、個人としてチームに合流し、支援活動にあたって下さった方々がおります。)

一つ一つのご奉仕、ご支援に、心から感謝致します。